

クリニカルパス アンケート報告

-現在の取り組みについて-

平成29年2月8日(水)

救急外来 磯邊 千賀子

【内容】

1. アンケート内容について
2. アンケート結果について
3. パス班での取り組みについて

1.アンケート内容について

◆調査期間：H28.10/19～10/28

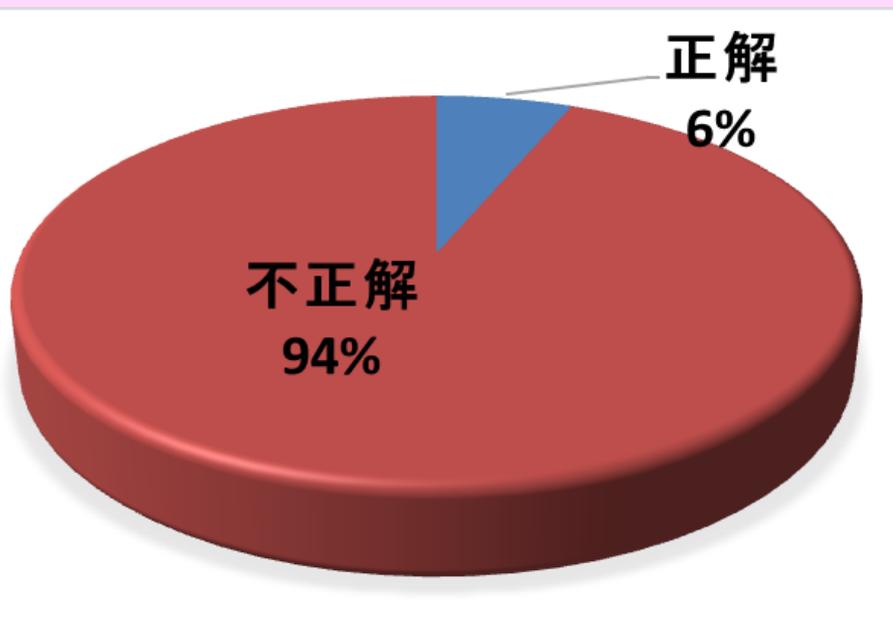
◆対象：全看護職員

◆調査方法：現状把握型

2.アンケート結果について

アンケート回収率：**94%** (237名うち回答者223名)

①パスのメリット



- 医療サービスの標準化
- 看護サービスの標準化
- 在院日数の標準化
- 業務改善



★ICの充実

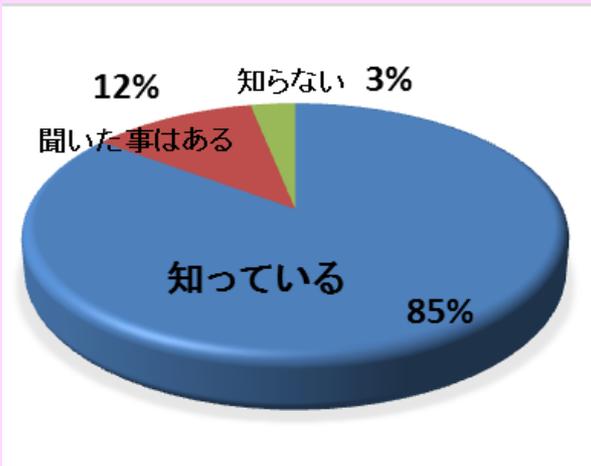
(インフォームドコンセント)

★チーム医療の推進

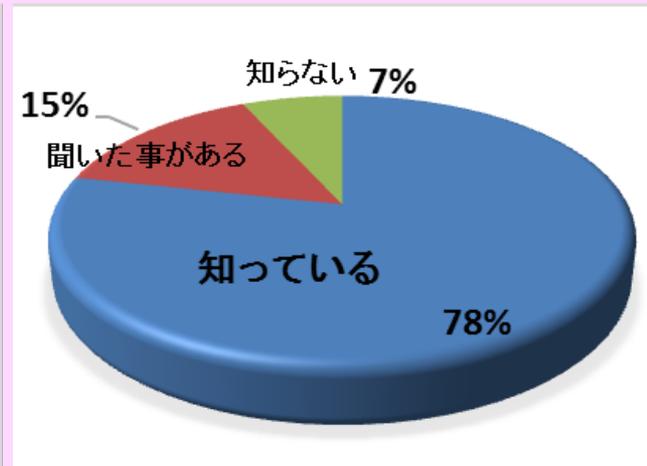
★リスクマネジメント

②パスの用語

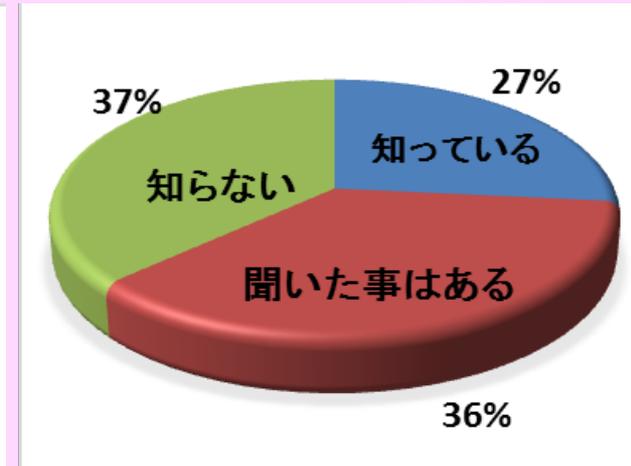
①アウトカム



②バリエーション



③臨床インディケーター



◆アウトカム、バリエーション⇒約8割が知っていると回答

◆臨床インディケーター

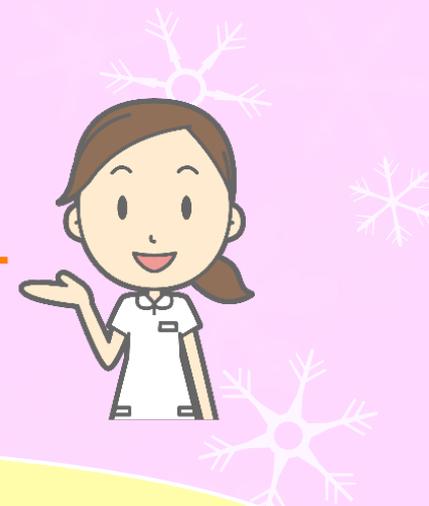
⇒知っていると回答したのは約3割

⇒約7割が聞いた事がある、知らないと回答

👉臨床インディケーターの周知度が低い

◆用語概説

※クリニカルパスマニュアルに記載されています



①アウトカム

⇒臨床上望ましい結果

- ・創部に問題がない
- ・疼痛コントロールができています

②バリエーション

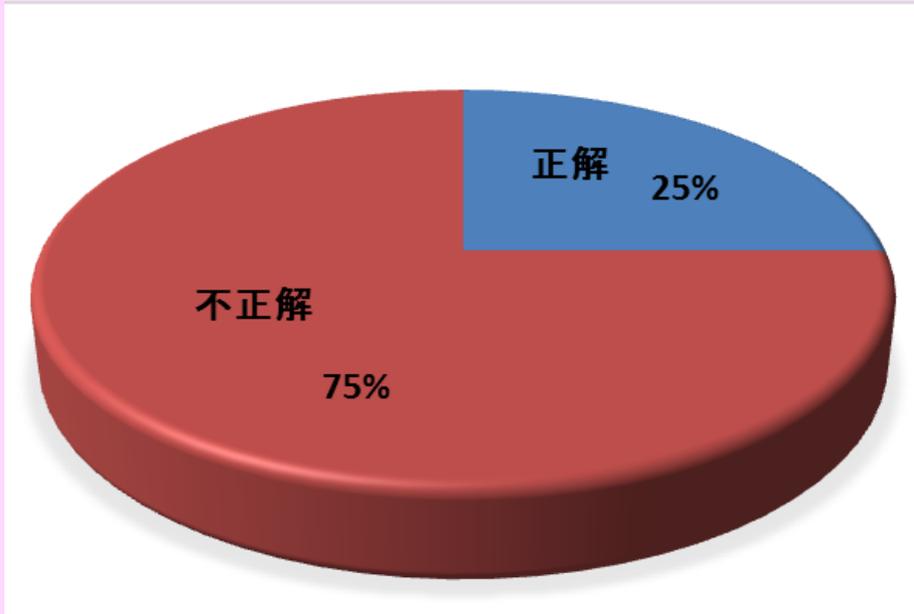
⇒アウトカム(目標)が達成されない状態
標準的な治療経過から外れること

③クリニカルインディケーター

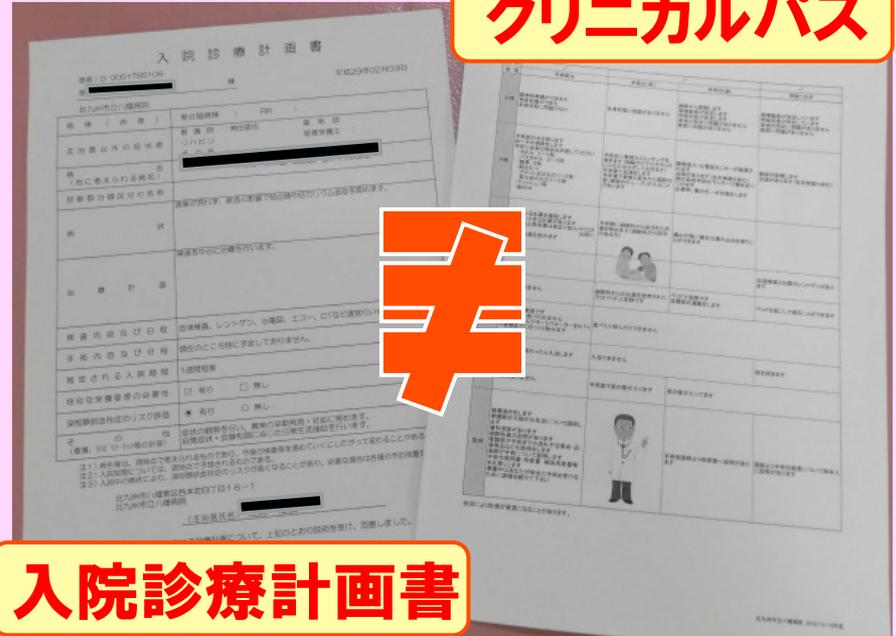
⇒アウトカムの中でも、特に注意を要する
可能性のある状態

- ・麻酔から覚醒する
- ・循環動態・呼吸状態が安定している

③パスの運用方法



クリニカルパス

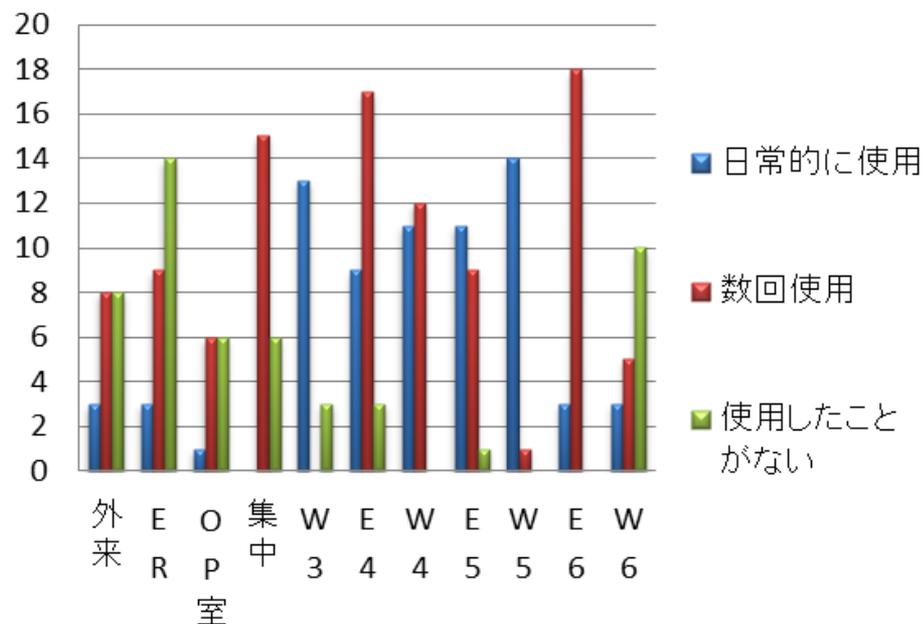
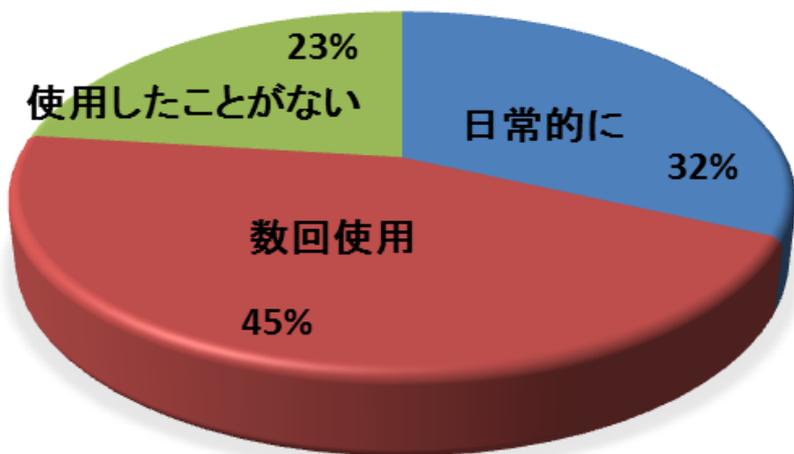


◆本来、パスは一定の基準を満たしていれば入院診療計画書と同等の役割を果たす ➡ 入院診療計画書をパスで代替することが可能

⇒ 当院では、一定の基準を満たすパスの整備が行えていない

パス・入院診療計画書 それぞれで運用しています！

④パスの使用の有無



◆日常的にパスを使用していると回答⇒約3割

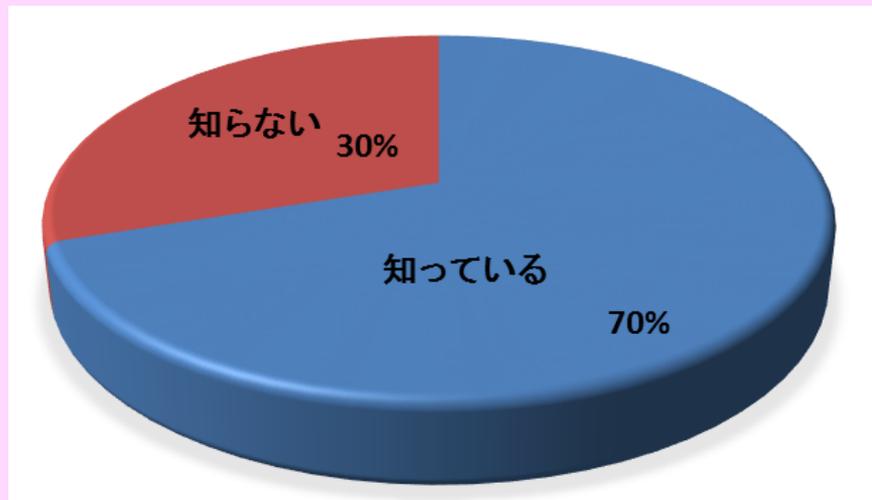
病棟別に見ると、西3・西5病棟で日常的に使用

(外科) (整形外科・眼科)

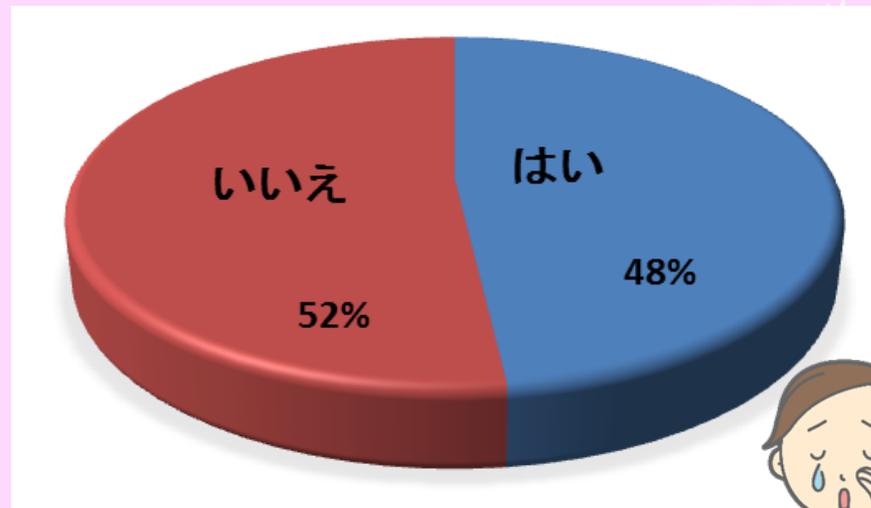
次いで、西4・東4病棟(小児科)での使用率が高い

⑤パスの認知度

◆当院で使用している
臨床パスを知っている



◆当院でパス通信が
発行されていることを知っている



◆現在パス通信は、**4部**まで発行されています。
パス通信の中には、**新たに承認されたパス**
の情報など記載されています。

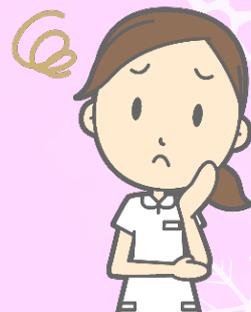
⑥自由意見欄 一部抜粋

意見多数

◆パスを使用しないので入力方法が分からない

◆使い慣れていないのでインシデントに繋がりそう

◆パスはあるが使用されていないことが多い



◆パスを積極的に活用したい

パスに対して
ポジティブな意見

◆パスの運用により業務量がやや改善したと思う

◆循環器パス (心不全/CAG) ・内科パス (ESD/EMR) を作成して欲しい



3. クリニカルパス班の取り組み

①パス記載(入力)方法のマニュアル作成

3. 記入方法

アウトカム評価(新規登録)

クリニカルパス名 肝動脈塞栓化学療法 フェーズ 術後4日目

評価者 [選択済み]

評価日時 2016/07/18 18:07 評価日時コメント

アウトカム	評価タイミング	状況	バリエーション	コメント
発熱がない	毎観察時	<input type="radio"/> 未到達 <input type="radio"/> 到達 <input type="radio"/> 条件付到達 <input checked="" type="radio"/> 未評価	入力	
創痛のコントロールができていない	毎観察時	<input type="radio"/> 未到達 <input type="radio"/> 到達 <input type="radio"/> 条件付到達 <input checked="" type="radio"/> 未評価	入力	

① 評価日時(1)を、評価を行った時間に修正する。

② 自分の勤務帯が該当する評価タイミングに、状況を選択する。

例)『創痛のコントロールができていない』についての評価

未到達: 鎮痛剤を使用後も、創痛が軽減しない、または増強している状態

到達: 創痛がない状態

条件付到達: 鎮痛剤の使用、体位の工夫などの何らかの介入により、創痛の軽減または消失が図れている状態

未評価: 上記のいずれにも該当しない状態

① コメントの記入について

未到達や条件付到達を選択した場合、その状態・状況に対して、何らかの対処を行っているか予測される。

そのことを簡潔に記録する。(解熱剤の使用。鎮痛剤の使用。新たな治療など)

詳細については、経時記録の形式で入力する。

カルテ経歴 経過表 日めくり 熱型表

肝動脈塞栓化学療法 術後3日目

アウトカム・観察項目	凡例	アウトカム	観察項目	全て
アフェーズ #			14:00	22:00
術後3... 0	★	発熱がない	毎観察時	到達
術後3... 1	★	創痛のコントロールが...	毎観察時	到達
術後3... 2	★	穿刺部に問題がない	毎観察時	到達
術後3... 3		日常生活の注意点について...	日勤	到達

⑥ クリニカルインディケーターは、アウトカムの語句の初めに、★印が表示される。

このアウトカムにバリエーションが発生した場合、治療に重大な影響を与える。

治療の変更、次の診察時に医師に報告し、医師の判断に判定し、医師

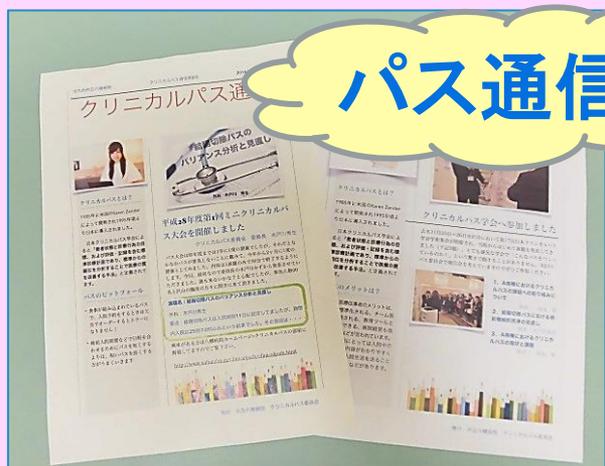
**マニュアル完成間近！
完成後、皆さんに伝達予定**



②パスの推進・普及に向けて

◆各部署へパス作成の働きかけ

◆パスに関する広報活動



パス通信



※1月10日時点

皆さん、読んでください！

承認パス数の掲
示

◆既存パスの見直し・整備

◆パス作成方法についてのマニュアル作成

院内にパスを普及させましょう！



記録委員：クリニカルパス班のメンバー

ご清聴ありがとうございました